エベネゼル緊急基金
出エジプト作戦

Issue 4/2022
#46・2023

EBENEZER
OPERATION EXODUS

将来と希望

「とこしえから聞いたこともなく、耳にしたこともなく、目で見たこともありません。あなた以外の神が自分を待ち望む者のために、このようにするのを。」イザヤ書６４章４節

イスラエルの回復を助けるクリスチャンの働き

将来と希望

国　際

ピート・スタッケン
Pete Stucken
国際理事会　議長

「とこしえから聞いたこともなく、耳にしたこともなく、目で見たこともありません。あなた以外の神が自分を待ち望む者のために、このようにするのを。」イザヤ書６４章４節

「この幻は、定めの時について証言し、終わりについて告げ、偽ってはいない。もし遅くなっても、それを待て。必ず来る。遅れることはない。」ハバクク書２章３節

何年も何世紀もの間、彼らは待ちました。彼らの祖先の地を追われて、四方に散らされました。彼らは帰って来る時を待ち望んでいました。

過ぎ越しの祭りの時、そしてヨム・キプールには特に、「来年エルサレムで!」という祈りの言葉が、４０世代以上にも渡ってイスラエルの散らされた者たちの子孫の心と口に繰り返し響いてきたのです。

繁栄があり、見た目には穏やかで比較的安全な時期にも、彼らは待ち続けました。また、厳しい荒廃や迫害や大きな苦しみの時にも、心からの叫びがありました。彼らの独特で情熱的なまでの歴史的な故郷への切望は、神様ご自身が、彼らが他のものでは決して満たされない願いとして彼らに与えておられたものなのです。

神の時を待つことは、はじめから神様が民に求めておられたことでした。神様の深い知恵の中で、神様が民を約束の地からあえて引き離しているように思われる時もありました。

神様がイスラエルの地をアブラハムとその子孫に与えるという約束を再確認した時でも、神様は、約束を受け取るためには外国の地で待つ試練があると語られました。

「主はアブラムに言われた。「あなたは、このことをよく知っておきなさい。あなたの子孫は、自分たちのものでない地で寄留者となり、四百年の間、奴隷となって苦しめられる。」（創世記１５章１３節）

エジプトでの奴隷の重荷は、イスラエル人にとって非常に苦しいものとなりました。彼らの叫びは天に届きました。そして神の時に、力強い解放が来たのです。

奇跡としるし、そして紅海が分かれるという恐るべき奇跡。待ち望む４００年を経て、最初のアリヤーの大路が開かれたのです。

写真
上：モーセがイスラエルの民とともに紅海を渡る場面のモザイク画

右：出エジプトーモーセがイスラエルの民を率いてエジプト人から逃れて荒野を渡る

右中央：イスラエルの紙幣のセオドア・ヘルツェルの肖像画

それでもまだ約束の地への直接の道はありませんでした。その代わりに、荒野で４０年さまよう時が来たのです。そこで民は神の道に従うことを学びました。この辛い待つ時期の後に、荒野で一つの世代が死に絶えて初めて、道が完全に開かれました。それからヨシュアがイスラエルの民をヨルダン川を渡って約束の地へと導いたのです。

その何世紀も後に、イスラエルの北の１０部族がアッシリア人によって散らされた後で、ネブカデネザルの征服軍がユダとベニヤミンをバビロンへ捕囚として連れ去りました。エレミヤは待つ時をあらかじめ語っていました。そのことはダニエルがバビロンにあるエレミヤの巻物を研究していた時に見つけたものでした。

「まことに、【主】はこう言われる。『バビロンに七十年が満ちるころ、わたしはあなたがたを顧み、あなたがたにいつくしみの約束を果たして、あなたがたをこの場所に帰らせる。

わたし自身、あなたがたのために立てている計画をよく知っている――【主】のことば――。それはわざわいではなく平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。

あなたがたがわたしに呼びかけ、来て、わたしに祈るなら、わたしはあなたがたに耳を傾ける。あなたがたがわたしを捜し求めるとき、心を尽くしてわたしを求めるなら、わたしを見つける。わたしはあなたがたに見出される――【主】のことば――。

わたしは、あなたがたを元どおりにする。あなたがたを追い散らした先のあらゆる国々とあらゆる場所から、あなたがたを集める――【主】のことば――。わたしはあなたがたを、引いて行った先から元の場所へ帰らせる。』（

エレミヤ書２９章１０－１４節）

彼らは待ちました。ダニエルに導かれて彼らは祈り、時が満ちてクロス王の宣言によって、彼らが約束の地へ帰還する道が開かれたのです。

西暦７０年にローマ軍によるエルサレムの包囲と、西暦１３５年にエルサレムの完全な崩壊があり、ユダヤ人たちはそこを追われて、想像を絶する長い待つ時期を過ごすことになります。来る年も来る年も、何十年もまた何世紀にも渡って待つ時が続きました。しかし希望は失われていませんでした。過ぎ越しの食卓のまわりでは、数えきれないほどのユダヤ人の家族が次のように祈っていました。「来年はエルサレムで！」どのような状況であっても、希望は死ななかったのです。

１８世紀以上待った後で、定められた時が来ました。１８９７年が定められた時だとわかる

鍵は、セオドア・ヘルツェルがベーゼルで第一回のシオニスト大会を開催した時です。それから、１９１７年にイギリスのバルフォア宣言では、今まで公式には語られなかった言葉を用いました。「ユダヤ人のために国家を・・・確立する。」何かが準備されていたのです。

１９４８年5月１４日は、イザヤの預言が驚くべき方法で成就しました。なぜなら、国家が文字通り「一日のうちに生まれた」からです。「だれが、このようなことを聞き、だれが、これらのことを見たか。地は一日の苦しみで産み出されるだろうか。国は一瞬にして生まれるだろうか。ところがシオンは、産みの苦しみと同時に子たちを産む。」（イザヤ書６６章８節）

詳訳聖書においては、この箇所に次のような説明を加えています。「世界の歴史においてこのようなことは未だかつて起こったことがない。神はご自身のことばを守られる。エゼキエル書３７章２１，２２節に語られているように、イスラエルは正式に国家として認められ、実際に「一日のうちに生まれた」のだ。約２０００年にもわたって故郷から離れていたにも関わらず、ユダヤ人に、１９１７年１１月バルフォア宣言によって、パレスチナにある国家が与えられたのだ。１９２２年には、国連はイギリスにパレスチナの委任統治をさせた。１９４８年5月１４日には、イギリスはその委任統治権を放棄した。するとただちにイスラエルは主権国家と宣言されたのだ。そして国々におけるこの国の成長と重要性は驚くべきものとなった。」

神は、神を待ち望む者たちのために動いてくださったのです。その後の何十年の間に、３５０万人ものオリムが帰還したのです。彼らにとって、待つ時が終わったのです。これからさらに多くの者たちが帰還することでしょう！

ユダヤ人難民慰める

モルドバ

「わたしはほんの少しの間、あなたを見捨てたが、大いなるあわれみをもって、あなたを集める。怒りがあふれて、少しの間、わたしは、顔をあなたから隠したが、永遠の真実の愛をもって、あなたをあわれむ。――あなたを贖う方、【主】は言われる。」イザヤ書５４章７，８節

パベル＆リナ
Pavel ＆Lina
モルドバリーダー

ウクライナでの戦争が始まったばかりの時の大移動の時と比べると、モルドバのユダヤ人難民の数は減少しています。しかし、私たちの国に今たどり着く人々は、以前逃げてきた人々と同じくらい弱くもろい状況にあり、たくさんの支援が必要です。家族を失った人々は特にケアや気遣い、励ましの言葉が必要です。また、年齢や健康の問題で特別な必要のある人たちはいつもいます。また、子供のいるシングルマザーや孤独な高齢者など。神様の助けの中で、エベネゼルチームは強められ助けを受けながら、神の民に慰めの言葉を語り続けています。

数多い家族の中で、パベルは、昨年の夏に、ラリサと彼女の孫息子のアリヤーを支援する機会に恵まれました。彼らはエベネゼルチームの喜んで助ける姿に深く感動していました。それで、ラリサはパベルにハイファの新しい家に訪ねるよう招待したのです。ラリサの娘は、ウクライナの戦争が始まる前に、マサプログラムでイスラエルに行き、技術系の専門の勉強をしていました。ですから、彼女は自分の母と息子が早くイスラエルに来てほしいと願っていたのです。彼らがイスラエルで一緒に住むことができることはなんと嬉しいことでしょう!

彼らが空港へ向かう途中、ゲオフィとスベトラナという７０代の夫婦が、自分たちが受けたケアと支援について涙しながら語ってくれました。彼らはカーキフというウクライナの東部の町に住んでいました。彼らはその町から出たことも出る願いさえも持ったことがありませんでした。その地域の軍事基地への激しい攻撃が２月下旬から始まりました。しかし、住宅地は攻撃されていなかったので、ゲオフィとスベトラナは、なんとか避難することなくその場所に住み続けて生き延びたいと願っていたのです。

しかしある日、彼らが住んでいた9階建てのアパート（彼らは8階に住んでいました）が揺れて飛び上がりそうになりました。近くで大規模の爆破があったためです。それで、彼らはもうそこにとどまることはできないと悟りました。モルドバの首都であるチシナウに着くと、彼らはアリヤーの申請をして、７月にテル・アビブへの飛行機で出発したのです。

彼らの話から、神のみことばを思い起こします。「まことに、万軍の【主】はこう言われる。『間もなく、もう一度、わたしは天と地、海と陸を揺り動かす。』」（ハガイ書２章６節）

ウクライナの「揺り動かし」によって、アリヤーの波が引き起こされました。次にどの国が「揺り動かされる」のかはわかりません。しかし、多くのユダヤ人が約束の地に帰る次の波のために祈り準備するのは私たちの働きなのです。ですから、私たちは神の民が集められ、イスラエルが回復するための神の器として仕えることができるのです。

ウクライナからの多くのオリムとともに、私たちはモルドバからイスラエルに帰還するユダヤ人の家族への支援を続けていくのです。

その中には、ヤロスラフ、妻のエフゲニア、彼らの赤ちゃんのエバ、そしてヤロスラフの祖母のリナ（７６歳）がいました。彼らは、アリヤーの準備の期間のエベネゼルが経済的などの様々な支援をしたことを深く感謝していました。エベネゼルは彼らが何度もチシナウにあるイスラエル領事館へ行くのを助けることができ、また彼らの書類の準備のための費用も支援することができました。

ウクライナの戦争と、彼らが住んでいたトランスニストリア地方での問題によって、彼らができるだけ早くイスラエルへ帰還したいと願うようになったことは疑う余地もありません。その地域からのほとんどのオリムがそうですが、彼らは書類を準備するのがかなり困難でした。ですから、エベネゼルチームが、アリヤーの長く手間のかかるプロセスにおいて一つ一つ彼らを助け支援したことを非常に感謝していました。

どうか、モルドバのエベネゼルチームがさらに多くのアリヤーの支援をすることができるようにお祈りください。

用語解説

アリヤー(Aliyah)：

ユダヤ人が約束の地、イスラエルに帰還することを意味します。

ユダヤ機関(Jewish Agency)：

1929年 C.ワイズマンによって創設され，エルサ レムに本部をもつユダヤ 人の国際的機関。パレス　チナにユダヤ人の本拠を 設けるというシオニストの計画の対外機関。パレ スチナへのユダヤ　移民の監督，ユダヤ系経 済組織の確立などに努める。

オリム(Olim)：

イスラエルに帰還するユ ダヤ人

死の陰の谷を通って

ウクライナ

タニア
Tanya
ウクライナチーム

祈りの時間を持ち、神様のみこころを求めてから、私たちエベネゼルチームは、ウクライナの東にあるドネプロペトロフスクへ行きました。一体そこに何があるか私たちはわかりませんでした。しかし感謝なことに、私たちの心には平安がありました。ですから主が導いてくださり、イスラエルへ帰還させたいと願っておられる家族の元へ連れて行ってくださり、「死の陰の谷を通って」も帰還させてくださることを信頼しました。

ユダヤ人家族との面会は、ひどいサイレンの音の中で行われました。しかし超自然的な平安が私たちの心を満たしていました。ですから、ユダヤ人の家族たちもそれを感じているようでした。神様ご自身が、ご自身の翼の陰に私たちをかくまってくださるという確信がありました。

私たちが出会ったどの家族の目にも、希望の光があるのを見ました。もっとも、彼らのほとんどは自分の愛する人や家を失って完全に希望を捨ててしまっているようではありましたが。どこへ行っても、私たちが出会った家族は死と暴虐の恐怖の中を生き延びた人たちでした。そして、私たちの国を襲ったひどい困難や災難を目撃してきたのです。

彼らは地下室や車庫や穴やごみの山の中などに隠れていた痛々しい体験を語ってくれました。彼らの多くは負傷していました。イナは夫と息子を亡くしたことを話してくれました。そして自分の目の前で娘と孫たちが撃ち殺されたことも。イナ自身もひどいけがを負っていました。泣きすぎて涙も涸れ、もはや泣くことすらできなくなっていました。「私はぜひともイスラエルへ行きたいです。」と彼女は言いました。「虐殺されもう帰らない子供や孫たちの記憶があるからです。

私たちは家族みんなで秋にイスラエルへ帰還することを計画していました。しかし今私の家族はもう私と義理の息子の二人だけになってしまいました。それであっても、私は書類を整えて何とかイスラエルへ帰還したいのです。もう私は何も恐れてはいません。そして私が死ぬ時には、イスラエルの地で死に、葬られたいのです。」

写真
エベネゼルの奉仕者が働いている場面のいくつかの写真

Sodel Vladyslav / Shutterstock.com

効果的な忍耐強いとりなし

祈　り

クェイ・メスナー
Quay Messner
USA祈りのコーディネーター

預言的な祈りに召された人々は、どのようにして何十年もの間、アリヤーのような神の働きに焦預言的な祈りに召された人々は、どのようにして何十年もの間、アリヤーのような神の働きに焦点と情熱を保ち続けることができるのでしょうか？彼らはどのようにしたら、日常生活の必要や喜びや悲しみなどの中でも、祈りの働きに忠実でいられるのでしょうか？

社会的、霊的な激動の中でも、彼らはどのようにして召しに堅く立ち続けることができるのでしょうか？また、どのようにしたら彼らは貴重な時間と心をささげて、疲れることなく、見た目には不可能に思えるような障害が取り除かれるように、また時には予期せぬ緊急の必要のために祈り続けることができるのでしょうか？

その答えは、単純なものですが、驚くべきものです。それは現実的なものであり、時には明らかに感じることができるもので、この世のものではないものです。それは、世に蔓延する態度に対する直接的な対抗です。主から直接祈る者に与えられるものです。このことはみことばに現わされています。

「わたしの聖なる山に来させて、わたしの祈りの家で彼らを楽しませる。・・・なぜならわたしの家は、あらゆる民の祈りの家と呼ばれるからだ。」（イザヤ書５６章７節）

「しかし、あなたがたが近づいているのは、シオンの山、生ける神の都である天上のエルサレム、無数の御使いたちの喜びの集い、」（ヘブル書１２章２２節）

「あなたの見張りの声がする。彼らは声を張り上げ、ともに喜び歌っている。彼らは、【主】がシオンに戻られるのを目の当たりにするからだ。」（イザヤ書５２章８節）

「まことに、【主】はこう言われる。「ヤコブのために喜び歌え。国々のかしらに向かって叫べ。告げ知らせよ、賛美して言え。『　【主】よ、あなたの民を救ってください。イスラエルの残りの者を。』」（エレミヤ書３１章７節）

ここに書かれた質問への答えは、主の喜びなのです！私はこのとりなしの働きにおいて１４年前から仕えていますが、主の喜びはずっとともにあるのです。

私たちはこの聖なる預言的な祈りの働きに聖霊さまとともに関わるなら、主の喜びに満ちた臨在が私たちの心の中に、独特で継続的な、また尊く力強い形で入ってくるのです。これは隠された要素ですが、それこそが、私たちがこの重要で効果的な祈りを通して主の勝利にあずかることが確かなものとするのです。

特別な体験

イスラエル

マルクス＆ラヘル
・アッカーマン
Markus & Rahel Ackermann
ハイファハウスリーダー

ドイツ出身のアッカーマンの家族は、ハイファでの働きをしてきました。マルクスとラヘルはこの素晴らしい家族のリーダーであり、子供たちは彼らの働きを支え協力しています。彼らが最近次のように語っていました。

「私たちにとって今年特別な体験だったのは、ハイファに中国からのユダヤ人の家族を迎えたことでした。もともと彼らは上海出身ですが、その後ドイツ留学をしてそれからアリヤーしたのです。彼らは3人の子供たちとともに、私たちの家をたくさんの喜びで満たしてくれました。彼らはドイツ語が話せるので、言葉の壁もなく、私たちは彼らの体験の詳細を聞くことができました。私たちの子供たちは、彼らの5歳の息子とよく遊びました。その男の子はよく感情をこめてトーラーを私たちに読んでくれました。彼らを迎えることができて私たちは本当にうれしかったです。

3月の報告に、私たちはウクライナからの家族についてお話しました。彼らには障害を持つ息子がいます。彼らは私たちとともに3か月の間滞在しました。ディマは1階のお風呂のタイル貼りを手伝ってくれました。何週間か前に私たちは悲しい知らせを聞きました。ジュン・ディマが突然脳梗塞で亡くなったのです。私たちはショックを受け本当に驚きました。

それでラヘルがディナの未亡人のレナに会いに行き、この困難な状況の中で、なんらかの慰めとサポートや実際的な支援をしたいと思いました。彼女がイスラエルに着いてからずっと何とかイスラエルでの生活に適応するために、頑張ってヘブライ語を学んだり努力したそうです。それで、これからはもう彼女にはそれほど困難な状況はないことと思っていたということでした。レナの両親もまたイスラエルに住んでいます。それで私たちはレナと彼女の息子を、時々ご両親の元へ連れて行ってあげています。私たちは、神様が祝福の扉を開いてくださりレナの人生に注いでくださるようにお祈りをしています。

過去何週間かの間、ボランティアのチームが来て私たちとともに一緒に奉仕をしてくれました。それは、私たちにとって祝福でした。エリックとアンドレアは、ミリアムとジョアンナとともに私たちと協力して奉仕してくれました。そしてすべての働きを心から喜んでしてくださいました。ですから、私たちが不在の時にも、オリム達がよいケアを受けることができ感謝でした。

Operation Exodus

Ebenezer Operation Exodus
International & UK Offi ce
PO Box 9103, Bournemouth
BH1 9DA, UK
+44 (0) 1202 294455
enquiries@ebenezer-ef.org
www.operation-exodus.org

Operation Exodus USA
PO Box 568 Lancaster NY 14086

Phone: 716 681 6300
info@ebenezerusa.org
www.ebenezerusa.org

EBENEZER
OPERATION EXODUS

エベネゼル緊急基金日本支部

〒062-8691 豊平郵便局私書箱 37 号
Tel&Fax: 011-813-3558（岡田）
office@ebenezerjapan.org
http://ebenezerjapan.org/
郵便振替（名称）エベネゼル緊急基金
（番号）02710-0-55842

Operation Exodus （出エジプト作戦）はエベネゼル緊急基金の実際的な働きの名称です。すべての国々からユダヤ人がイスラエルの地に帰還するように支援しています。彼らが約束の地に帰還するという神の計画と目的を宣言するべく 1991 年に３人の人から始まりました。
イギリス本部、アメリカ、スイス、ドイツを中心に国際的活動を展開し、さらにイスラエルを含めた２５カ国に各国代表者と各国支部を配置しています。そして、旧ソ連諸国には実際的な働きのために、数多くの活動の拠点を設置しています。日本支部もその働きの一部です。